

戸田康之さん『マスク』

戸田です。サインネームではこのように表します。よろしく。

今日は、マスクについての話をします。

今、新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るっています。感染予防でマスクをしている人がたくさんいますね。テレビでの安倍首相や都知事の記者会見に、手話通訳がついているのを見る機会も増えてきました。それ自体は良いことなのですが、誤解されていることもあります。手話通訳者はなぜマスクをしないのか、通訳者自身に感染リスクがあるなどと言われることがあるんです。確かにそう思われてしまうのももっともかもしれませんが、手話は手だけを見るわけではありません。眉や肩の動き、口型（こうけい）などが文法になっています。なので、手話を見るときには手と顔の両方を見えています。

ろう者が通訳者を同行して病院を受診するような場合には、通訳者がマスクをしたままのこともあります。通訳者自身が感染しない、また感染させないための対策です。ですから、マスクをしていることによって口型が読み取れず、通訳と通じないことも当然起こります。ただ、そうなった時でも確認し合うことができるので、マスクをしたままでも通訳が可能なのです。

しかし、テレビは一方通行の通訳です。通訳相手と確認し合ったり、わからない時に通訳を止めることはできません。ですから、テレビに映る手話通訳者はマスクをせず、口型による文法をしっかりと見せているのです。

口型の文法とは、例えば、マウスジェスチャーと呼ばれるものがあります。手の形は同じであっても、それに付随する口型の違いで意味が変わります。

「働く」という手話を例にとって、口型を変えて3通りの表出をやってみます。3つとも手の形は全く同じでしたが、口型は1つめが「ン」、2つめが「ウ」、3つめが「エ」と、それぞれ違っていました。もう一度通して見てください。口型が違くと、意味も変わります。1つめの場合は「一生懸命仕事をする」、2つめは「問題なく順調に仕事をする」、3つめは「適当（不真面目・いいかげん）に仕事をする」という意味になります。

手話を見るときには、手だけでなく文法として口型も一緒に見ることがとても大事なんだということを、ぜひ知ってくださいね。